

「お泊り保育を終えて」

園長 鈴木勝子

例年よりも長かった梅雨がようやく明けて本格的な夏がやってきました。昨年の夏は記録的な暑さによる「災害級の暑さ」となりました。今年も消防局から「熱中症予防情報」が連日流されています。梅雨の頃には、「記録的短時間大雨」という言葉をよく耳にしました。いずれも『地球温暖化による異常気象の影響』を身近に感じます。エアコンを上手に使い、水分補給や十分な休息をとってこの夏を元気に過ごしたいと思います。

さて、七月十八日、十九日と年長組（そら組）が北区引佐町の観音山少年自然の家で一泊二日のお泊り保育を行いました。下見に行った職員が撮影してきた写真を見ながら、沢遊びや山登りの計画を立てたり、グループごとにキャンプファイヤーの出し物の作戦を練って準備を整えました。タフテープで三つ編みを作り、持ち手にしてペットボトルの沢遊びバックを作りました。三つ編みもなかなか根気のいる作業でしたが、子ども同士で教え合ったり励まし合う姿も見られました。また、グループの話し合いの場面では自分の意見を主張するだけでなく、普段おとなしい友達の意見も聞こうと「〇〇ちゃんはどう思う？」と声をかける姿もあったようです。友達との関わりから多くのことを学び経験しています。一週間前には看護師から「体調管理シート」が配布され、早寝早起きの必要性や生活リズムを整え自分で体調管理をするお話も聞きました。

準備万端で出発したのですが…観音山は二日間とも雨でした。雨が降って計画の通りにならず残念に思ったのはおとなの方で、子ども達は雨天のプログラムを十分に楽しんでいるようでした。一日目は他園の友達とじゃんけんゲームをしたり一緒にダンスをして楽しみました。夜は聖隷浜松病院ひばり保育園の友達とキャンドルの集いを行いました。そして二日目は観音山の思い出にクラフト製作で壁掛けを作りました。食事ごとの挨拶当番をはじめ、活動ごとに役割を決めて、それぞれが任された役割をしっかりと果たすこともできました。初めての場所で家族と離れて友達や職員と一緒に過ごす、自分のことは全部自分でする、等心配や不安やドキドキを乗り越えて自信や達成感を得ることが出来ました。そして、何より子どもたちの心の栄養になったのはお家の方からの愛情たっぷりの『秘密の手紙』です。一人ひとり職員に読んでもらい、嬉しそうに笑顔で聞いている子、照れくさそうにニヤニヤと笑っている子、お家を思い出してしみりと聞き入る子、等反応は様々でしたが、どの子もお家の人から愛されている、大切にされていることをしっかりと噛みしめ、心に刻んでいるようでした。お忙しい中、体調管理シートの記入や秘密の手紙、持ち物の準備とご協力くださったお家の方に感謝いたします。

園に到着したバスから降りて来る子どもたちの表情は自信に満ち溢れていました。当日は天候に恵まれませんでしたが、準備段階を含めてお泊り保育の行事の目的を達成することができたのではないかと感じました。園の行事は当日だけの単なるイベントではなく、行事に向けての日々の保育の中に学びや経験があります。行事を通してお家の方と共に子どもの育ちを支えていきたいと考えます。

八月は世界で初めて日本に原子爆弾が落とされた日「原爆記念日」、戦争が終わった日「終戦記念日」があります。今私たちが平和に毎日を暮らせているのは、多くの尊い命のおかげで成り立っています。今月は、今ある生活や身の回りの環境に感謝をして、子どもたちと一緒に平和について考えてみたいと思います。